

○テーマ 「自然との共存」

モンゴルという国の名前を聞いて、私が最初に思い浮かべたのが「大草原」でした。それほど私にとってモンゴルという国と自然は切っても切り離せないようなイメージがあったし、私が住む鳥取県も大山やきれいな水、きれいな星空など、自然ととてもかかわりが深い県ですが、近頃は以前田んぼだった場所に新しい住宅街ができたり、虫や動物の姿が見られなくなったりなど、自然がなくなりつつあると感じる場面が多くなってきました。だからこそこのテーマを設定し、常に意識して研修へ臨もうと思いました。

まず、このテーマを強く意識させられたのは、空港から移動する際に見た景色でした。周りには草原が広がっているのに、遠くを見ると、街の光やビルが見えて、まさに自然と人々の共存している国なんだなと思いました。遊牧民体験でたくさんの動物を見たり、触れ合えたりしたときもこのテーマを強く感じさせられました。また、同時にどうしてこんなにも自然と共存して暮らせるのだろうと疑問に思いました。調べてみると、地理的な条件や人口密度のほかにも古くからの遊牧文化や宗教上の考え方、また、現代の環境保護エリアの設定などの工夫が関係しているとわかりました。日本でも、都市緑化や再生可能エネルギーなど工夫が多く見られますが、研修を通して私は日本とモンゴルの自然との向き合い方には違いがあると感じました。例えば、モンゴルは人が自然に合わせるという向き合い方なのに対し、日本は人の生活に自然を取り入れて調節するという向き合い方というものです。季節によって移動するゲルと固定型の木造家屋という2つの国の家屋の特徴からもこの事が分かります。

日本に帰ってからモンゴルとは違う日本ならではの自然の美しさを強く感じたり、それを守っていきたいと感じる場面がたくさんありました。モンゴル研修を通して学んだり感じたことを活かして、自然との向き合い方を考えていけたらいいなと思います。



○現地での出会いを通して得たこと

私はこのモンゴル研修を通して特に言語やそれを越えた人とのつながりについての関心が大きくなりました。今まで小学校、中学校、高校と英語に関わってきましたが、いざ本来の「気持ちを伝える」という目的を持って英語を使おうとすると、あまりうまくできた経験が

なく、高校に入って何度かあった海外を訪れる機会も避けていました。ですがモンゴルを訪れて大きく気持ちや考えが変わりました。今回の研修は、公用語であるモンゴル語だけでなく、フムーン総合学校との交流で英語、日本語学校との交流で日本語と3種類の言語を使うというなかなかない環境でした。そのため、海外＝英語というイメージがあった私の不安も薄れ、また、現地の人の人懐っこさも相まって、文法などのミスを恐れずに気持ちを伝えるために英語や他の言語を使うことができました。改めてミスを恐れず話してみる、挑戦してみるという、今まで大人に何回言われても納得できなかったことが自分のものにできたような気がしました。今回の研修で自分が本当にやりたいこと、大学で学びたいことを見つけるということを目指していた私にとって、これからたくさんの言語や日本語の奥深さを学んで気持ちをより深く伝えるためのツールとして使っていきたいと思えたこの研修は本当にいい経験になったと思っています。

○今回の経験を活かして

私はこの経験を、将来図書館司書になって、子どもたちを中心としたたくさんの人に、言語を使った表現やコミュニケーションの楽しさを伝えることに活かし、言語によって人と人とのつながりを強くする手助けをすることで社会に貢献していきたいです。また、自然に対する考え方をより深くし、自分の身の回りの自然を守っていきたいです。この研修は私の「もっといろんな世界を見て、いろんな文化を体験したい」という意欲を広げてくれた、きっと私の人生でかけがえのないものになる経験になりました。最後にこのような経験ができる自分のいる環境やその環境を作ってくださる人たちに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

